

世界旅打ち気分

●第52回・カラとポートマーノック

須田鷹雄



口取り撮影などもしっかり行われる



ポートマーノックのゲート車、修理中



カフェからパレードラングを見られるカラ競馬場

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

「ロナ禪もだいぶ長くなつたが、一部の渡航先を除けば海外旅行に行くのも帰つてくるのもだいぶ容易になつた。そもそも久しぶりの海外に、と計画している人も多いのではないか」

筆者が海外に「復帰」したのは、2021年の10月、渡航先はアイルランドといギリスだった。拙著「世界の真ん中で馬に賭ける」にも書いたが、同著の中に砂浜競馬(レイタウン)をどうしても入れたかったからである。当時は海外に行くなどと言つたら犯罪者扱いされるような空氣だったので、誰にも言わず渡航した。

そして、当時は行くこと自体もなかなか難儀だつた。72時間前の陰性証明など条件も厳しく、空港でチェックインするときに要件を本当に満たしていくか「り」りに確認されたものだ。

ただ、そういう作業を厳格にやつているのは日本側で、乗り継ぎのロンドンに着いたら書類やアプリの確認がないどころか、昔と同じように自動化ゲートで入国できてしまつた。ダブリン行きのチケットイン時も、接種証明書を確認されただけ。紛糾した場合に備えて乗

じと言つたら犯罪者扱いされるよう空氣だったので、誰にも言わらず渡航した。

そこで、當時は行くこと自体もなかなか難儀だつた。72時間前の陰性証明など条件も厳しく、空港でチェックインするときに要件を本当に満たしていくか「り」りに確認されたものだ。

り继ぎ時間を長くとついたために、ヒースローで3時間ほどもでます」となつた。

アイルランド入国も通常のイミグレーションのみ、帰りにイギリスを経由する時も特になし。結局帰

りの苦労で最大のものは、日本の検疫が認めてくれる陰性証明書の取得だつた。それに加えて羽田での手続き。いまとなっては懐かしいが、あれをもう一度やれと言われたら海外に行く気も失せてしまいそうだ。

そつまでして行つたレイタウンについては改めて別な回に書くとして、今回はアイルランドの超定番競馬場と超マニアック競馬場をひとつ紹介しよう。

超定番競馬場は、カラ競馬場であります。アイルランドのクラシック競走が行われる競馬場であると同時に、創設がいつなのか分からぬくらい古い競馬場でもある。アイリッシュユターフクラブの管轄下に置かれたのが1760年頃だというから、日本でいうと10代将軍徳川家治の時代、歐州でも産業革命が起きる少し前の話だ。

カラ競馬場には、グリーンチャンネルの口ヶで初訪問したのだが、文化の違いがあるようだ。

このカラ競馬場は大改装を経て、今回も接種証明必

その大きさが分かる。アイルランドの競馬場は「広すぎて見えん」ということがよくあるが、そこもアイルランドらしさとこうことで楽しみたい。

さて、カラとは対照的に、ダブリュンから車で気軽に距離である一方、まず日本人は行ったことがないであろう競馬場も紹介したい。ポートマーノック競馬場である。そう言われても全くピンとこないに違いない。それもそのはず、アイルランドではあまり存在感のないハーネスレースの競馬場である。場所はダブリンの空港から東に8キロほど行つたところで、空港からの距離だけならダブリン市内に出るよりだいぶ近い。ただ帰りのタクシーなどいるわけもない(Uberは呼べるかも)ので、レンタカー必須である。

このポートマーノックへ行くにあたり、下調べは難航した。開催日程は分かったのだが、競馬場のホームページがあるわけでもない。入场料も分からぬし、先述したように前売り入場券が必要な時期なのにオンラインで買う術がない。検索を重ねても「いったんは住宅

用地として売却、競馬場廃止が決まったものの、その計画が頓挫したので存続できた」などという、臨場には役に立たない情報しか出でこない。

仕方ないので出たと勝負で向かつたのだが、行ってわかつた。競馬場といふほどのしっかりしたものでなく草競馬の趣うたのである。駐車場に入るとき10€(ユーロ)を取られてそれが入場料。スタンダードはなく櫓と小屋だけで、小屋は「ロナ」によりクローズ。よつて陰性証明もヘチマもなかつた。

私の行った日は全9レースでトロント(斜対歩)が5レース・ベース(側対歩)が4レース。フランスのようにトロット専門というわけではなく、アメリカやオーストラリアのようにペースの比率が高いわけでもなかつた。

同日の一着賞金で最も安いものは423€、最も高いもので915€。もちろん出走手当のようないのはないだらうから、これは馬主・調教師・ドライバー(騎手)とともにただでやつていけるというものではないだろう。どういう仕組みで成り立つているのか分からぬが、少なくともドライバーは專業ではないものと思われる。

かくも小規模な競馬だがレース別な運転手が登場したのだが、「そんな」とつてある?」といつ開催態勢だつた。

客層は家族連れが中心で「りりに馬券を買うファンはそつ多くないよう見えたが、それでもブックメーカーの台は4台出でた。い。